

NEWS LETTER

福井大学 男女共同参画推進センター第9号 H27.3発行

女性研究者交流サロン（ランチミーティング）を開催しました

12月24日（水）ランチミーティングを開催し、6名の参加がありました。今回は、工学研究科でベトナムご出身の女性研究者も参加され、同じ工学系の先輩女性研究者と研究内容についての話題や、日本とベトナムの生活習慣の違いについてなどの意見交換もありました。また、妊娠中の女性同士で出産や子育ての話で盛り上がりました。さまざまな垣根を越えて楽しく交流することができ、とても充実した時間となりました。



育メン★インタビュー

＜事務局 主任 山田和弘さん＞



Q・1 家族構成と今回取得した休暇について教えてください。

家族構成は、私、妻、2人の子（長女2歳7ヶ月と長男1ヶ月）、父、母です。1月に第二子が生まれたのを期に、育児休業を平成27年1月26日から2月20日の間（4週間）取得させて頂きました。

Q・2 育児休業を取得しようとしたきっかけと職場の反応を教えてください。

第一子の出産時に、産後ひと月くらいが妻も周りも大変だと感じていたため、今回は私が家事と上の子の世話をしたいと思い取得しました。職場には取得の3ヶ月前頃に上司に相談しました。育休取得について賛成してくれて、私が抱えていた業務のフォローも含め取得に向けて色々サポートしてくれました。

Q・3 実際に育休を取得してみて、いかがでしたか。

私はずっと側にいてあげられたためか、上の子の赤ちゃん返りがほとんどありませんでした。また、これまで仕事を理由に片手間に育児をするところがあったのですが、育休期間中は積極的に関わることで育児の仕方についてもじっくりと考え直すことができました。私の子どもに対する接し方も変わりました。

Q・4 学内のこれからパパになる方へ、メッセージをお願いします。

育児というと仕事にとってマイナスなイメージを持たれる方が多いですが、仕事にプラスになる面も多々あると思います。私の場合、子どもが産まれてから時間管理の意識が高まりました。家事や育児の時間を捻出するため、仕事の進め方や時間の使い方を見直すきっかけになりました。また、4週間子どもと過ごして子どもは親が一番好きなんだと感じました。育児をできる期間はあっという間なので男性も親として積極的に育児に関わるべきです。両立は大変ですがそれ以上に嬉しい事や楽しい事が増えていきますよ。

平成26年度

「男女共同参画についての意識調査アンケート」を実施しました

男女共同参画に対する意識の向上及び働きやすい職場環境をつくる上での参考にすることを目的とし、アンケート調査を実施しました。ご協力有難うございました。今回はアンケートの調査結果の一部をご紹介します。詳しくは、eOffice掲示板に掲載してありますので、是非ご覧下さい。

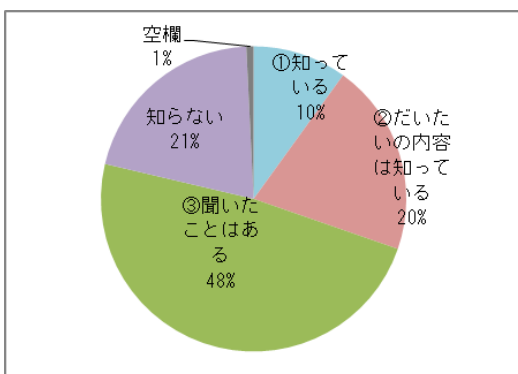
◀「男女共同参画についての意識調査アンケート」結果報告（一部抜粋）▶

調査方法：教員及び職員へのVDESK によるWeb 調査、教員及び医学部附属病院職員への質問紙調査

調査対象：本学に勤務する全職員（常勤、非常勤含む） 実施期間：平成26年10月1日～10月31日

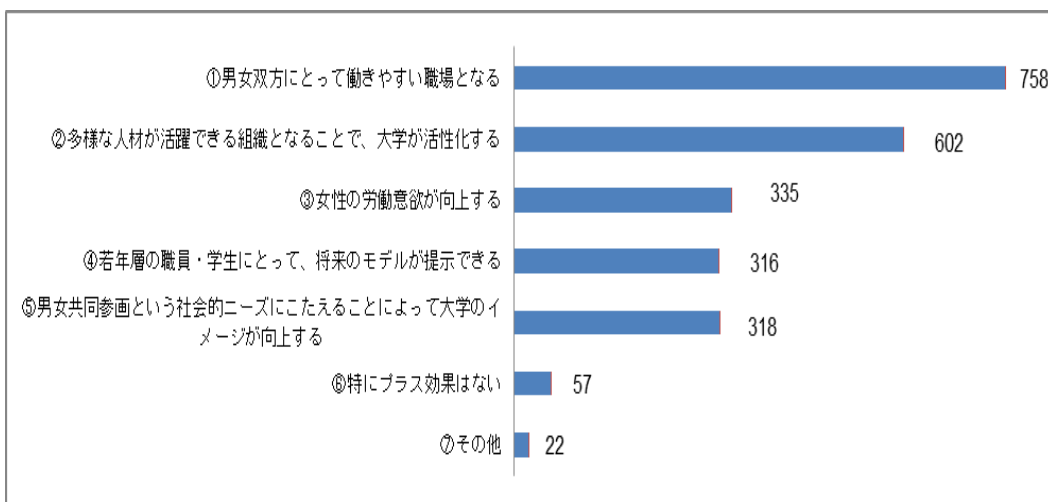
対象数：2,575人 回収数：1,445 回収率：56.1%

問・福井大学では、平成21年に「男女共同参画推進に関する基本方針」を制定し、公表しています。そのことについて知っていますか。



「知っている」と答えた者は10%、「大体的内容は知っている」は20%であり、両回答を併せても本学の「男女共同参画推進に関する基本方針」の周知度は3割程度であった。しかし、昨年度の19%よりは増加していた。

問・福井大学で男女共同参画を推進することは、どのようなプラス効果があると思いますか。あなたのお考えを、2つまでお選びください（複数回答可）。



男女共同参画を推進することの本学へのプラス効果として、「男女双方にとって働きやすい職場となる」と考えている者が最も多く758人、次いで「多様な人材が活躍できる組織となることで、大学が活性化する」602人であった。

◀発行元▶

男女共同参画推進センター（内線：文京2206）E-mail danjyo@ml.cii.u-fukui.ac.jp